



# 妙たえの光ひかり

通刊82号 復刊62号

2008年7月1日(季刊)

角田山妙光寺 発行

〒953-0011

新潟市西蒲区角田浜1056

TEL 0256-77-2025

## 蓮

仏教の象徴とされる蓮の花。それは泥水の濁りに染まることなく、清く美しい花をつける様子からきている。また、種子の中に花と果実が同時に見られる特異な性質から、現実の苦悩の中にこそ救いの道があるという教えにも例えられる。

夏を彩るお盆には欠かせない花で、境内に増やしたいのだが、日当たりが良ければ風当たりが強いなど条件のいい場所が見つからない。昨年、二千年蓮で有名な『大賀蓮』を含む五種類の苗をいただき、とりあえずプラスチックの桶で育てたら写真のように見事に咲いた。朝花が開くときにポンという音がするそうだが、残念ながら聞けなかった。

薫香と蓮の香朝の御堂より 松波はちす

※薫香Ⅱお堂から漂うお香

## 信心

### 拡大版

# 塔頭『京住院』を再建

## 河野清治(78歳)さん

小川英爾

このたび完成した『京住院』（通称を前寺）は、埼玉県朝霞市の河野清治さんの全面的なご尽力によるものです。いつもの「信心」のページを拡大して、その経緯をお伝えします。

### — 塔頭再建話 —



塔頭(たちゅう)とは、大寺院の高僧が亡くなると弟子

がその塔(墓)の頭(ほとり)を去らず、小寺を建てて住んだのが始まりと言われている。やがて大きな寺の境内には小さい寺が建てられるようになり、現在も規模の大きな寺にはたいがいある。それらは、

明治時代以前の僧侶は結婚しなかったため老齢になった住職の隠居所、あるいは本寺に勤める役僧の住居といったふうに使われてきた。妙光寺塔頭の『京住院』は、その名称から三五〇年前の住職で京住院日通上人の代に開かれたと推測している。その当時から建物ではないだろうが、老朽化したので二十五年ほど前に解体したのだった。四十年余り前まではここに寺家(じけ)様と呼ばれ酒が大好きな役僧が居て、逸話も多く皆さんにとっても親しまれていた。当時を覚えている高齢の檀徒もまだ多い。

近ごろ家族の形が変化して、「家族葬」と言われるように葬儀が小規模化し、同時にお寺を使いたいという希望が増えている。しかし妙光寺は部屋の間取りが大きく不便なため、『京住院』があつたら葬儀や宿泊に使えたらいいねと、話題になることが多かった。一方で、七年前に新本堂に建て替えた際、仏像一式を新しくし、それまでの仏像はいつか『京住院』を再建することができたら修復して、その御本尊にしたいのかすかな思いがあつた。そんなとこ

ろに河野さんから突然「私が全額負担するので昔の前寺を復活して御本尊をお迎えし、皆さんに使っていたらどうでしょう」とのお申し出をいただいたのだった。

### — 生まれ —

河野さんは昭和四年旧巻町に生まれた。本人もいまだに掴みきれない部分があるほど両親の出自は複雑で、父母双方が五人の子連れでの再婚だった。その両親の間に生まれた唯一の子が河野さんだった。しかも父親と母の先夫が兄弟らしいのだが、詳しいことはわからない。今の時代では理解しにくいだが、当時兄の死亡で妻が弟の嫁になるといった例は多かった。たとえ関係は複雑でも、河野さんは両親や義理の兄妹からは大切にされる優しい家族だった。もっとも両親の再婚で子供が十人にもなるせいも、養子幼女、あるいは嫁に行かされた兄妹もあって、両親と二人の姉との生活しか記憶にないという。

ただ河野家は妙光寺先々代住職の夫人の遠縁にあたるという話もあって、そのせいか親戚は皆妙光寺の檀徒である。河野さんの母も信仰心が篤く、文字が読めなかったのに、先代住職から大きな和紙に「シキヨウナンジ・・・」と、お経文を大きなカナ文字で書いてもらって毎日熱心に読んでいた。

### — 東京へ —

十五歳で小学校を卒業すると東京立川の陸軍少年飛行兵学校に入るが、翌年には終戦を迎えグライダーに乗っただけで、昭和二十年八月故郷の巻に戻ってくる。そこで父方の長男について大工となり、親戚の農家に泊まり込んで家の修理などに携わって糊口をしのいだ。「あのころは食糧難だったから、ご飯を食べさせてもらったり、給料の代わりに米をもらうんですよ」と。当時から手先が器用で、仕事の合間に作った大工道具の「墨つぼ」を、いまだに懐かしさから大切に保管している親戚があるという。

やがて東京に出る決心をして、昭和二十六年二十二歳でこの兄のつてを頼って深川の太工仲間の元へ。その年の十月には年齢学歴不問の工学院専修学校に入学、二年間建築設計一般を学んだ。そのときは深川を出て一緒に育った父方の姉キチ宅に居候させてもらう。実はこのキチの夫与一は母方の長兄でもあり、この夫婦に子供がいなかったせいもあってかよく面倒見てもらった。その恩が忘れられず、後に与一が亡くなったとき、自分が申し込んでいる安穩廟に世話し、また現在九十歳を超えて施設に入居しているキチの後見人として一切の世話を請け負っている。そんな義理堅い河野さんである。

## — 結婚 —

やがて学校を終え、友人と二人で部屋を借りて建設業界に身を置くものの、当時は建設不況もあって小さな建設会社を渡り歩くことになる。そんななかでも河野さんは二十九年に二級建築士、三十年に測量師、三十四年には念願の一級建築士に小学校と専修学校卒業だけの学歴で合格する。

そのころ仕事の合間にアパートからも近い喫茶店「リラ」に通い、クラシックレコードを聴くのが楽しみになっていた。その店を手伝っていた店主の妹の智子さんと、一級建築士合格発表の帰り道に八百屋の店先で偶然に出会い言葉



智子さんの書いた水墨画

を交わす。それを機に交際が始まり、ある日河野さんが風邪で寝込んだのを、智子さんが寝ずに看病してくれたことから決意して三か月後に結婚式を挙げた。そのときの智子さんの言葉がこの二人をよく表している。「私、八百屋の前で出会ったときあなたと結婚するって決めたの。でも私の年齢を聞かないという条件を承知してくれるならね」。二十九歳だった河野さんは勝手に思い込んでいた二歳年下ということ周りに話し、自分でも何ら疑うこともなかった。それが六十歳で年金をもらうとき、何かの書類で智子さんが十一歳年上だったことを初めて知った。「いまごろわかったの、馬鹿ねえ」と智子さんは明るく笑った。音楽、書、絵画と多彩な智子さんはいつも元気で明るかった。「元々の性格も時代の教育もあるのでしょうが、私は生真面目で根っから暗い人間だったのです。でも智子に出会って人間はこんなに明るく生きられるんだって、教わりました」と河野さん。

## — 仕事時代と退職後 —

いくつかの建設会社で働きながら、大企業の地方支店建設工事をいくつも任されるほど信頼され河野さんはこつこつ働いた。子供ができなかつたので、お金は土地を買ったり、株を買って損をしたりしたが結構貯まった。しかし小さな建設会社で役員にも就いたから、倒産で負債を負わさ

れては困ると思いい半分は妻名義にしていた。

人並みに病氣もした。母親の八十八歳のお祝いに帰省してそこで心筋梗塞になり、巻町立病院に入院した。二ヵ月後の退院の日の朝、優しかった母が逝ったのも不思議な縁だ。東京に戻って良い先生に心臓手術を受けたのだが、その十年後ガンに罹ったときも偶然同じ先生に執刀していただき、いまは元気に過ごすことができている。

退職後二人は平成九年十一月、檀徒で巻に住む姪を伴い、懐かしい故郷の妙光寺を訪ねて安穩廟を決めた。境内には智子さんにも優しかった河野さんの母ウメが眠っている。さらに十四年には生前戒名を二人で受けた。善定院随喜日清信士、善智院妙信日果信女。

### ―妻の死―

病弱ではあったが明るい智子さんが、平成十七年秋から不調を訴えるようになった。暮れの十二月五日に掛かり付け医の勧めで入院検査したが、何も見つからない。十八日には病院で年賀状の準備もした。「でも本人にはわかるんでしょうか、何気なく香典返しへの準備はできているの？って言われてドキッとしました」。二十五日精密検査でスキルスガンという、胃壁に隠れたガンが見つかった。腹水にもガン細胞があつて手術は困難と言われ、河野さんは覚悟した。最期が年末年始にかかることも懸念されたので妙光寺

に連絡、近くて信頼できる葬儀社にいつでも対応してもらえる段取りができた。医師に痛みはできるだけ取って欲しい、延命処置は不要と伝えた。二十二日ころはオーデコロンが欲しい、タオルは柔らかいものを、と言う力もあつたが、二十七日呼吸困難となり、翌二十八日早朝、眠るように静かに眼を閉じた。妙光寺から鎌田が読経に伺い、葬儀は後日行うことにして二十九日、近親者立ち合いの元で火葬に付した。

### ―死後の整理―

予てから夫婦の間では子供がないから二人の遺産は妙光寺に寄付しようと話していた。ところが財産の半分近くを妻名義にしていたのに、夫婦間でのお互いの死後相続を取り交わす遺言書を書いていなかった。そのため財産の整理に弁護士を頼むなど、その手続きにとても手間どった。こんなことでは自分亡きあと妙光寺に遺産贈与で面倒をかけるかもしれない。だったら生前に寄付しよう、それなら前寺再建に使ってもらえれば皆さんに喜んでいただけると考えた。

さらに遺言書を書き、死後に残った不動産は国連のユニセフに寄付して世界の恵まれない子供たちのために使うこと。自分の遺体はそのまま妙光寺に運ぶところまで弁護士に依頼する。その後の葬儀は妙光寺に生前契約してある、

と決めた。

— 今の気持ち —

「智子が亡くなって二年半ですが、辛くもないし悲しくもない。ただただ寂しい。世間で言う老々介護なんて悲惨なことにならなくてよかった。とても穏やかに逝ってくれたことがとても嬉しい。彼女は菩薩様だと今でも思っています。二人で授戒を受けて戒名を戴いて以来、お経を見よう見まねで読んでいましたが、智子が亡くなってからは、毎日朝晩欠かしません。母が和紙に書かれた大きなカナ文字をたどどしく読んでいたのが耳に残っているから、私も読めるのだと思います。毎日時間があるから『法華経新講』というお経の解説書を買って読み始めたら、面白くてワクワクしながらいま八割くらいまで進みました。お経ってたとえ話で説かれていてなんて面白いんでしょう。

前寺への寄付は確かに大金かもしれませんが。子供がいなかったからさせていただけで、大げさに受け止めないでください。私たちは本当にいろいろな方たちに恵まれて生きて来られました。世の中には菩薩様が大勢いらっしやるんだなって思います。そう言えば昔前寺におられた寺家(じけ)様、あの方の顔を覚えていますが、五百羅漢のお一人みたいでしたね。やさしい方だった。

他は何ともないのですが足がジワジワと弱ってしまい、

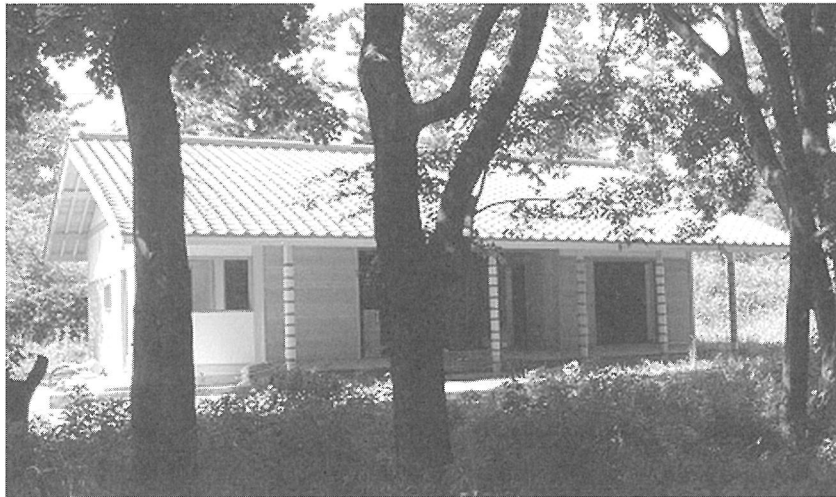
近くなら運転してどこでも行けますが新潟までは自信がありません。落慶式はせつかくですが遠慮させていただきます。巻の姪が迎えに行くから出席しようと言ってくれますがともとても。私が拝見するのは私の葬式のときでしょう、ははははは。寂しくなるので智子の遺骨もそれまで一緒にここに置いて、私と一緒に納骨してください」。どこまでも謙虚に穏やかにそれでしつかりと語る。

炊事もこなすし、友人からおかずの差し入れも届く。智子さんの影響で、クラシックから民謡まで音楽が大好きで、最近はずぐ近くの店でカラオケを覚えたという。唄うのは「赤いハンカチ」、「錆びたナイフ」、「鳥唄」。

— 最後に —

妻智子さんの亡きお兄さんの奥さんが河野さん夫婦の一番の理解者で、法事に参列されると昔話に花が咲く。この息子さん二人が著名な建築家で、弟さんは先ごろ新潟駅舎と周辺再開発の設計競技の最優秀賞を受賞された。新幹線と在来線が一体となる新しい新潟駅はこの人の設計になるそうで、「私らが結婚したときはまだ小さかったのに立派になって」と、これまた不思議なご縁にとっても喜んでおられた。

## 前寺の完成と落慶法要



木々の合間から望む外観

### ― 外観と仏様 ―

今回再建の『京住院』は以前より道路寄りで、駐車場から入ると緑の木々の間に丸みを帯びた瓦屋根が見え隠れする落ち着いた作りです。道路に面した裏側は砂防林として常緑樹を密植するよう県の指導があり、正面は内から眺める庭として秋に整備し、最終的な完成をみます。内部の本堂に当たる壇上には、有志の方々のご協力で修復された旧本堂の仏様一式を安置します。新品同様に見えますが、すべて江戸時代末の仏像です。

### ― 落慶法要 ―

六月末に完成し、県の検査を受けた後、七月二十一日に落慶法要を営みます。本来なら皆さんにご案内すべきですが、とても入りきれませんので、工事関係者、

ご寄附の方々、役員で行いますのでご了承ください。

八月一日（お盆法要）、三十日（フェスティバル安穩）当日、開放しますので自由に見学できます。

### ― ご利用ください ―

この『京住院』は、檀信徒の通夜・葬儀、安穩会員も含めた法事のお齋や、遠方から参拝の方の宿泊に開放します。特に通夜・葬儀は、病院から直接ご遺体を搬入し、共に家族が二〜三日宿泊することもできます。そのため和室に寝具、床暖房と冷房、風呂、台所等の設備も完備し、看病疲れの家族でも気兼ねなく最期の数日を過ごしていただけます。基本はお寺ですが、貸別荘風の宿坊と考えてください。和室の定員五名ですが、八人くらいまでは可能です。

費用を含めた暫定的な使用規則が九ページにあります。正式には秋に最終的な庭の工事が完成してから、利用案内書を作り配布します。ご利用開始は八月五日からで、七月十五日から申込み受付を開始します。通夜・葬儀の場合は予約不



ゆるやかな丸いカーブを描く瓦屋根

要で、優先的に利用できます。ご遠慮なくお問い合わせください。

― 再建事業協力者 ― (順不同・敬称略)

― 建設業者 ―

・ 建物及び仏具

用地整備

河野 清治 (朝霞市)

・ 仏像修復

内藤 至 (新潟市巻)

宮路 一重 (新潟市臨港町)

角田浜講中 (新潟市角田)

海老原靖紀・泰子 (松江市)

西田 安子 (千葉市)

中村 弘 (市川市)

近藤 京子 (東京都)

谷井淳四郎 (東京都)

石田 礼子・石田 裕子

坂本 悦子 (東京都)

・ 造園修景

保科 孝且 (新潟市新津)

笹川 薫 (新潟市船戸)

塩沢 久子 (新潟市東堀)

― 建設業者 ―

中澤敏章建築設計室、飯島さとし建築

設計室 (建築設計)、春秋設計工房 (造園設計)、重川材木建築部 (本工工事)、

荒井電気 (電気設備)、竹内設備 (給排水設備) 玉木屋根屋 (瓦)、サトウプラ

スター (左官)、緑遊工房 (造園土木)、

アサヒシステム (防災設備)、斎藤大工

(仏具制作)





# 『京住院』 利用規定

## 角田山妙光寺

- 1、本施設の名称は妙光寺塔頭（たっちゅう）『京住院（きょうじゅういん）』です。通称を前寺といいます。
- 2、本施設は檀徒の河野清治さんの寄付により、昭和50年代に解体した寺院を再建したもので、檀信徒、安穩会員に限定して参拝の折の宿泊、お斉、葬儀の会場に供します。
- 3、本施設は歴史あるお寺を開放するものですから、節度を持った利用をお願いします。
- 4、利用は予約制ですが、葬儀が重なった場合は葬儀の方を優先し、予約されていた方には本坊の施設を利用いただきます。
- 5、利用限度日数は葬儀の場合は必要日数とします。それ以外の利用は1泊とします。
- 6、一泊の場合の利用時間は、原則として午後3時から翌日午前10時までとします。
- 7、利用料は志が建前ですが、以下の金額を目安とします。
  - ① 法事のお斉はひとり500円
  - ② 宿泊は1泊5名まで2万円。6名以上は貸し寝具代金の実費。
- 8、飲食の持ち込みは自由ですが、備え付けの品物を使用した場合は実費精算となります。
- 9、ご利用の前後には係りの立会いによる説明と点検を受けてください。
- 10、屋内は防災上の理由もあり、禁煙とします。
- 11、備品を破損された場合は、当該金額を負担いただきます。

## ・役員会議を開催

妙光寺ではすべての活動とその経理を、定員二十五名の檀徒役員が合議のうえで運営しています。皆さんからいただいた会費やお布施等の全収入、住職給与も含めた人件費等の全ての支出に関して、会計事務所から出された収支決算書、貸借対照表を基に審議しており、希望する檀徒にはこれを開示します。

今年度は六月十五日に定例役員会を開催し、欠員二名とお祭りで欠席二名があり、二十一名の出席をいただきました。議案が承認されました。事業内容と通常会計以外の主な議題は「京住院」再建事業関連、安穩基金会計、仏像修復関連でした。安穩基金は外国債券で運用しており、社会問題化しているサブプライムローンによる損失もありましたが、平均五%の運用益を継続してきて全体ではマイナスにはなっていないことから承認されました。

現在の妙光寺の会計は安穩廟事業、京住院再建事業を抱えて規模も大きく、会計事務所提出の資料だけでは理解しにく

い部分もあって、印刷物にしての公開はしていません。もつとわかりやすくして、檀徒に公開したほうがいいのではとの意見を受け、今後その方法を検討する方針です

## ・仏像の修復

本堂のお釈迦様像は七年前の新本堂落成の際、新しくお迎えしました。最高の檜材を使い寄木で作られています。一木ですと割れが入りやすいのですが、寄木なのでその心配はありません。その一方で違う木を寄せているため、微妙に色の違う部分がでてきます。日に焼けることで解消されると思っていました。木の性質のせいかな逆に色の違いが際立ってしまいました。

制作された石川仏師に滋賀県から来ていただき相談したところ、必要によって部分的に彫り直しをすることも考慮に入れ責任を持って修復しますとのことでした。しかしせっかくの自然木なので全体に着色することはしたくないし、そうすると色違いはある程度仕方がない。百



修復調査の試し塗りをする仏師

年もすれば気にならなくなるものだと思います。

もう一つ積極的な案として、金泥（きんでい）といって着衣の部分に金色の線書きを施すことで、もう一段お像が立派に見えて色違いが気にならなくなるといふ方法を提案されました。その場合は他の四体の仏像も金泥書きの必要があり、運搬経費も含めて全部で二百三十万円程

の費用がかかるそうです。

妙光寺には他に古くなって修復の必要な仏像が数体ありますが、緊急を要するのは二体です。こちらの見積もりが百三十万円と出て思案しています。ただありがたいことに、何かに役立ててくださると百万円の寄付をお預かりしていますので、これが元金になります。もしお力添えいただける方がおいででしたら、金額の多少にかかわらずお申し出いただければ幸いです。

### ・「ご判さま」華やかに

江戸時代から続くといわれる春の伝統行事「ご判さま」が、今年も晴天に恵まれたなかで華やかに行われました。例年なら満開の八重桜ですが、暖かい今年は葉桜の新緑に包まれ、雅楽と稚児行列を先頭にした式衆が境内を練り歩いて本堂に向かいました。寒百日間の荒行を終えた修行僧二人による水行もあり、また稚児も定員を超える申し込みで多かつたせいか、参拝者も増加したようです。

三十年ほど前までは丸二日間文字通り夜



雅楽を先頭に山門から本堂に向かうお練りの列

通しで行われ、近在はもちろん関東、北海道からも参拝者が詰めかけて境内には露店が立ち並びました。いまその面影はありませんが、最近若い僧侶の中から「話に聞く妙光寺の夜通しの法要とお説教をやってみたい」という話がでます。また事前準備から当日のお手伝いをいたたく檀信徒（当番制で今年は巻・割前地区と角田浜）も、世代交代で若い方が増えて活気が出てきました。昔の様子を知



神妙に出を待つお稚児さんたち

っている方たちがいるうちに復活できたらと思います。

### ・日帰り参拝とお花見なごやかに

三月三十日、桜の開花に合わせて日蓮聖人の霊跡を参拝する日帰りの団体旅行をご案内したところ、檀信徒と安穩会員の皆さんが関東各地と新潟から四十五名参加されました。

上野駅に集合して電車を利用し、まず



柴又・題経寺でお堂の彫刻を拝観

寅さん映画でお馴染みの柴又帝釈天・題経寺に参拝。ご開帳の後お堂周囲の彫刻を見学、その後映画のシーンにあるような参道の蕎麦屋で昼食をとり、買い物や「寅さん記念館」「矢切りの渡し」を散策しました。次の予定の間々山弘法寺は、人数が多すぎてタクシーが手配できず中止。電車で中山の法華経寺に向い、桜が満開の境内を歩いて国宝の本堂、五重塔を参拝。



屋形船での懇親会

続いて同じ境内にある荒行の根本道場として知られる遠寿院へ。修行の伝師であるご住職から家内安全、身体健全の御祈禱をいただき、さらに妙光寺とのご縁のお話を伺いました。「太鼓の調子が最高でお題目がもっと長くてもよかったですねえ」等々一同で感激の参拝でした。

降り出した雨の中を浅草に移動して、隅田川を吾妻橋のたもとから貸切の屋形船に乗船。両岸は見事に桜が満開なのに

船内は暖房が程良く効き、揚げたての天麩羅に寿司や焼鳥に刺身等の御馳走がたっぷり。さらに飲み放題の各種のお酒で話が盛り上がり、完全に花より団子状態。あっといふ間の90分で、皆さん口々に「本当に楽しかった」と、下船後名残惜しそうに解散となりました。ご希望が多かったので次回も検討します。

### ・コンサートと洋服展示

昨春秋に好評だった「うさごとさぶろう」の洋服展示と販売会を五月三十日から三日間開催し、新聞で紹介されたこともあり、期間中人の足が絶えることのない繁盛ぶりでした。期間中の三十一日夜には黒坂黒太郎さんのコカリナコンサートを行い、百人の聴衆が本堂で澄んだ音色を堪能しました。

黒坂さんは民俗学者の宮本常一先生の生前に薫陶を受けたおひとり、先生が今年生誕百周年に当たるのを記念して、全国百か所で演奏する計画です。宮本先生と小川住職も間接的なご縁があり、会場の聴衆に少しお話をさせていただきます



本堂での演奏

た。宮本先生は日本中を文字通りくまなく歩き、地方の人々が自分たちの暮らしを大切にしてこそ、日本人の幸せがあると説かれました。小学校と通信技師養成学校卒の学歴でしたが、武蔵野美術大学の教授として多くの学生を指導されたことでも知られています。

・お手伝いのお上人

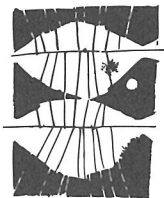
研修中の矢部が八月一日から三十五日間の本山での修行に入るため、お盆の時期に手不足になります。それ以前から交代で休日を取ろうにも時間が取れない問題がありますので、新たに近所の若い方にお手伝いをお願いしました。九月末までの毎週水、木の二日間、受付と法事、葬儀に出てもらっています。長岡市竹森の和光寺の次男で小田泰映上人といえます。三十歳の大変しっかりした好青年です。ですので宜しくお願いします。



・他宗教の勧誘にご注意

最近さまざまな宗教のしつこい勧誘でお困りの方が多いようです。どう対応してよいかとの相談を以前からお受けしています。キリスト教系、仏教系いろいろあつて、寺にまで来るほどですから熱心と言えばその通りですが、その強引さには呆れてしまいます。

「話だけでも聞いて欲しい」とか「冊子を読んで欲しい」とか言つて若い男女が強引に押し掛けて来ます。こうしたときは曖昧な態度を取らずに「妙光寺の檀信徒なので関心はありませんから、直ちにお引き取りください」ときっぱり伝え、それでもしつこいですから「従つていただけない場合は警察に通報します」と、毅然と対応することをお勧めします。



# ご案内

## ・年会費

個別に同封か、地区の世話人が伺いますので、今年の年会費をお願いします。振替用紙を同封した方でも郵便局を利用されず、直接妙光寺に持参されても結構です。その際でも振り込み用紙を必ずお持ちください。領収書は翌年の三月までの保管をお願いします。

## ・お盆の墓参りと施餓鬼法要

妙光寺では八月一日がお盆の墓参りです。午前六時から十時ころまで、個々のお墓の前での読経をお受けしています。安穩廟の場合も同様です。七〜八名の僧侶が水屋のあたりに待機していますので、直接声をかけて依頼してください。十時半から安穩廟法要、十一時から本堂で施餓鬼法要ですので、お参りください。

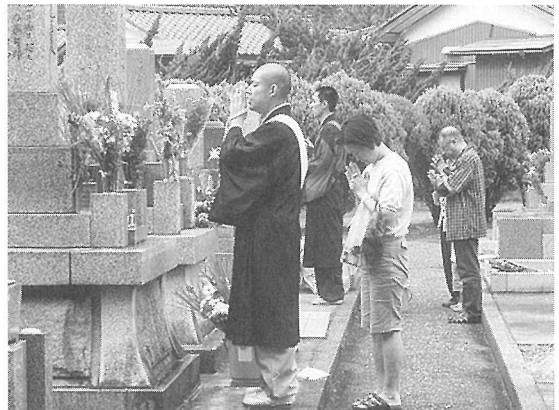
## ・塔婆供養

塔婆とは先祖や故人の供養のために、角柱や板に戒名か俗名または先祖代々と書いて立てるものです。お釈迦様の滅後、その徳を偲んで建てた塔（ストウーパ）に由来するもので、正確には卒塔婆（そとうば）と言います。

妙光寺では六尺（一八〇センチ）の板形式で、八月の施餓鬼法要では法要中に読み上げし、そのままお盆が終わる十六日まで本堂に立てておきます。お申し込みは七月二十七日までをお願いします。



塔婆を並べての施餓鬼法要



墓前での読経

### ・新盆のお宅へのご案内

今年新盆に当たる精霊を、八月一日の施餓鬼法要で本堂に位牌を安置して供養します。該当されるお宅には直接ご案内を同封してあります。ご不明の点はお尋ねください。

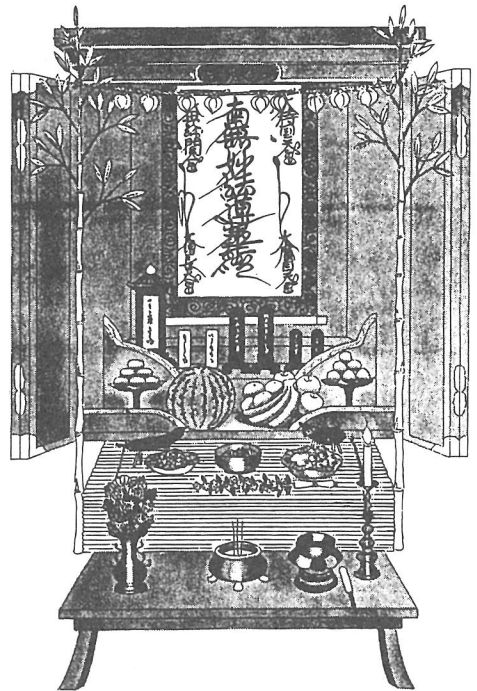
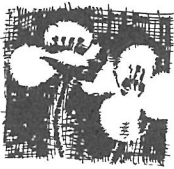
### ・生前に戒名を

戒名は仏さまの弟子になった証ですから、生前につけるのが本来です。戒名をいただいで、その後の自分の生き方を戒めるといふ意味があります。日蓮宗では法のみ名として法号と呼びます。

菩提寺の住職が仏さまに代わってお授けするものですから、その寺の檀信徒しかおつけしません。代々続かなくても、また夫婦のひとりだけでも、個人につけるものですから問題ありません。これまでの六回で百人以上の方が受けられました。

希望の文字をお聞きます。費用は三万円です、お名前と法号を金糸で刺繍した檀信徒用袈裟と、数珠を記念品として差し上げます。

次号で詳しくご案内しますが、今年十一月三日（月・祭日）に授戒式を行います。



安穩廟法要に向かう

## フェスティバル安穩ご案内他

### — 今年のフェスティバル —

埋葬された方々への合同供養と、会員・檀信徒の生前交流を目的に始めたフェスティバル安穩が十九回目を迎えます。今年は縁あって、テレビでお馴染みの女優藤田弓子さんがゲストです。昨年、一昨年と好評のコンサートでは、抜群の歌唱力で評判の酒井杏ちゃんの、若いながらも心に響く歌があります。法要での大口ウソクが明るい時間では際立たないとの声で、開始時刻を遅らせる計画を立てたのですが、帰りの電車が極めて不便なことがわかり、例年よりやや遅い程度に留まりました。

### — 献灯 —

毎年三百本を超す大口ウソクの献灯をいただき、スタッフは並べて点火するのがやっとでした。そのため献灯者が自分の名前の口ウソクを見つけれないとの声があり、今年は献灯者のお墓の区画の近くに立てることを準備中です。申込方

法はパンフレットをご覧ください。

### — 蓮華庵の改修 —

安穩廟と杜の安穩の中間に位置する丸い阿舎（あずまや）には、周囲に山の水を引いた池があつて蓮を植えていました。このたび池を埋めて芝を張り、橋を渡らなくても利用できるようにしました。理由は、山の沢から引いた水で水温が低く蓮が育たない。この沢で温泉掘削工事が行われ、その際に使われた特殊な粘土で給水管が詰まってしまい、新しい管を埋める必要が生じた。さらに、阿舎と池が近すぎて足元のあやうい高齢者には落ちる不安があるとの声があつた。以上の点から止む無く池を埋めて、より利用しやすい形にしたものです。

### — 『杜の安穩』増設 —

引き続き『杜の安穩』の申し込み希望が続き、用意した二四〇区画が五月末でほぼ満杯になりました。しかしその時点で問合せ者が百名近くおられ、後になつ

て無くなりましたとも言えず、対応を検討。なんとか五基四区画の土地を確保して十月完成を目標に着工しました。六月一日から予約受付を開始し、既に十件の申し込みがあります。これで土地が無くなりますので、現行の形式での増設ができなくなります。

### — 生前契約と京住院 —

このたびの京住院の完成で、葬儀の生前契約の方は更に安心できることになりました。これまでは寺の行事に重なる部署が不足して、ご遺体を葬儀社での一時的な安置を余儀なくされてきました。専門に使える京住院があることで、その問題はほぼ解消されます。生前契約の詳細はご相談ください。

### — 年会費のお願い —

年会費の振込用紙を同封しました。近くの郵便局からの振り込みか、直接お持ちください。「檀信徒になつていないのに、振込先が檀信徒会というのは抵抗感がある」とのご意見がありました。別に口座を増やすことは管理上の負担が増すのでご理解願います。「コンビニ、銀行から送金できないか」との声もあります。手数料経費が高額です。今後の課題とさせていただきます。



## 寺庭から

# 用心して下さい

小川 なぎさ



私は幼い頃から帽子、手袋、靴下のよ  
うに身体に何かをまとうことが嫌いな子  
どもだったそうです。(母が言うには我  
慢が足りないのよとか。)その性癖のせ  
いか、人から強制されたり自分で望ま  
ないのにみんなと同じことをすることが苦  
手でした。結婚は自分で決めたことな  
で無事にここまで続き今年は二十五年、  
銀婚式にたどり着きました。余談ですが、  
部活も個人種目、大人になってからは  
黙々と歩く登山に興味のほとんどを費や  
し、女子力(娘が言うには女らしさ)の  
低下にこれではいけないと思い、たま  
ま友人に誘われて近くのテニスクラブに  
入ったところ、今の住職に幸いな?こと  
に釣られてしまったわけです。

そのため体力と持久力は持ち合わせて  
いたので、寺の仕事に加えて子育てや介

護など、体調を崩すことなくここまでや  
ってこられました。ところが、このとこ  
ろ更年期の始まりにともなう少々心が  
風邪をひいたような症状になってしま  
いました。これは女性ならあまりめずら  
いことではないらしいので、どうとい  
うことも無いのですが、毎日の仕事に支障  
が出始めたのでしかたなく医者に行き、  
医者や薬が嫌いな私がきちんと薬を飲ん  
でいるため落ち着いています。薬の効き  
目に恐怖すら感じてしまいます。風邪  
が完全に治るまでにはもうしばらく時間  
が必要かもしれませんので、ポーっとし  
ておかしなことがあってもお許し下さ  
いね。

私の場合は幸い早目の受診で軽い症状  
で済みそうですが、我慢強い人は自分  
ムチうってのもっともっと頑張っ

い、こじらせてしまう場合も多いと聞き  
ます。「適当にやればいいんだよ。手を  
抜くところは抜いてさ。」というのは簡  
単ですが、それが出来ればとくくにやっ  
ているわけで、責任感の強い人もなりや  
すいそうですよ。

喜んでやっていることだとしても、女  
性は家庭を持つと我慢は定番だし、家族  
の介護なども疲れがたまりすぎて、不眠  
や自分の大好きだったことができなくな  
ったら注意をして下さい。よけいなお世  
話かもしれませんが、我慢のたたりない、  
けっこういいかげんな私がひいた(心の  
風邪、ひどくなるとウツという)のです  
から、皆さんもご用心下さい。そして特  
効薬は実感としてたぶん真の優しさや思  
いやりをもらうことと心ゆくまでの休養  
ではないかと……。

夏のはじまりです。暑くて大変でしょ  
うが、心身ともに無理をなさらずお過ご  
し下さいね。またお寺の行事もたくさん  
あります。お出かけ下さい。

# ▲行事案内▼

## ・関東地区お盆参り 七月初旬

関東地区の檀信徒宅にご連絡の上住職がお伺いします。半数は秋のお彼岸になります。昨年とは入れ替かえさせていただきます。

## ・『京住院』落慶式 七月二十一日(月)

関係者で営みますのでご了承ください。

## ・お盆参り、施餓鬼法要、新盆参り 八月一日

午前六時～十時・お墓でのお経受付。十時半・安穩廟法要。十一時・本堂で施餓鬼法要と塔婆供養、新盆供養。十二時・お斎。午後一時・お説教。

## ・お盆棚経 八月初旬～十六日

住職と鎌田、お手伝いの成川上人の三人で全檀徒宅に伺います。旧新潟市内、県内遠方のお宅は、ご連絡の上で八月初旬から。近隣のお宅は従来の日程ですが、予定を知りたい方、留守になるお宅は十日過ぎに電話ください。件数が増えている上に人手不足ですので、一部で変則的になるかもしれません。ご理解ください。

## ・岩屋七面宮祭礼 八月十九日(火)

午前十時半・本堂にて法要とお加持。その後岩屋に移動して法要。お昼に赤飯の供養があります。ご参拝ください。

## ・フスティバル安穩 八月三十日(土)

参加自由。詳細はパンフレットをご覧ください。

## ・秋彼岸会法要 九月二十三日(火・祭日)

午前十時半・安穩廟法要。十一時・本堂で彼岸会法要。十二時・お斎。午後一時住職説教。ご参拝ください。



あ  
と  
が  
き



先輩住職に「お前いつも体調不良って書いてるなあ」と言われました。皆さんからもご心配いただいて恐縮です。一時仕事量の多さに不眠で苦しみました。講演、原稿依頼は極力受けず、なるべく若い人に分担していまは快調です。

その分？妻なごさがやや不調ですが、こちらも休養を心がけて、かなり回復しています。寺の仕事はやれば限りなくあり、苦痛ではないのですが、気がつくとき体がくたびれてしまっているという状況です。無理せず歳年りの動きをすればいいということなのでしょう。お互いに気をつけて夏を乗り切りましょう。小川